

流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築

【観点】水質負荷と環境影響についての流域的な現状把握状況

「指標」琵琶湖の水質保全対策の取り組み内容・効果

【琵琶湖の水質調査状況】

【琵琶湖河川事務所】

琵琶湖河川事務所では、月1回の頻度で滋賀県、水資源機構の3者で連携して水質調査を実施しており、淀川水質汚濁防止連絡協議会、滋賀県環境審議会(水・土壌・大気部会)にて水質調査結果等の情報共有を行っている。

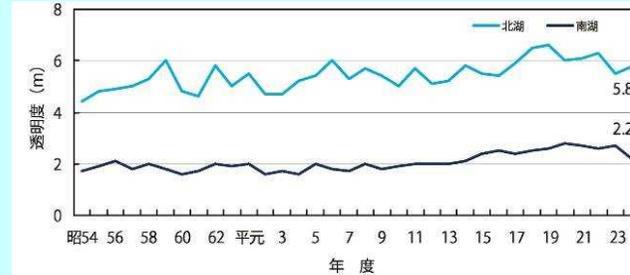


<水質調査船(国土交通省)>

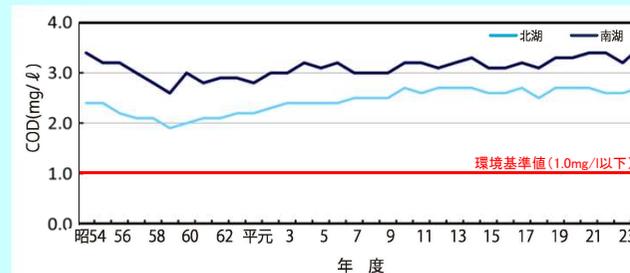


<琵琶湖での採水状況>

○透明度は、北湖では5.8mと前年度および過年度並であった。南湖では2.2mと前年度より低く、過年度より少し低かった。

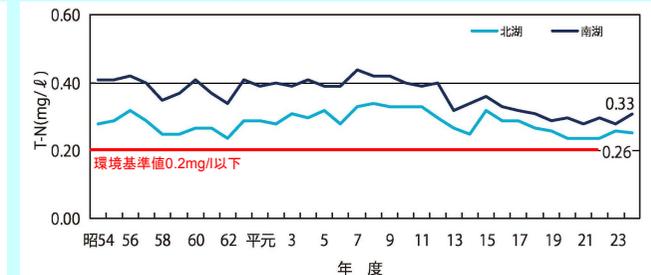


○北湖のCODは2.7mgと前年度および過年度より少し高かった。北湖のCODは、平成10年度以降、横ばい傾向にある。南湖では、CODは3.5mg/ℓと前年度および過年度より高く、調査開始以降の最高値を示した。

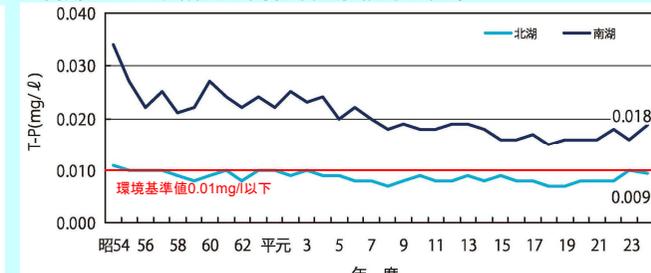


出典：滋賀県環境審議会水・土壌・大気部会資料(平成25年7月)
(平成24年度公共用水域水質測定結果(琵琶湖・河川))

○北湖のT-Nは0.26mg/ℓと前年度および過年度並であった。南湖のT-Nは0.33mg/ℓと前年度より少し高かった。



○北湖のT-Pは0.009mg/ℓと、前年度より少し低く、過年度より少し高かった。南湖のT-Pは0.018mg/ℓと、前年度および過年度より高かった。南湖のT-Pは、昭和54年度以降減少傾向にある。



※環境基準は参考として掲載

進捗状況

(平成24年度の取組)

引き続き、水質調査を連携して実施し、調査結果を共有した。

点検結果

河川水質の調査は関係機関が連携し取り組み、関係機関による下水道整備の促進、排水水質監視等を行っている。一部の水質調査項目においては環境基準が未達成となっており、近年横ばいもしくは少し高くなっている項目もある。また、水質汚濁防止・対策連絡協議会において、流域的な水質管理方法及び汚濁対策について検討が進められている。

今後も引き続き関係機関が連携し河川の水質調査と水質保全対策を実施するとともに、流域的な水質管理方法及び汚濁対策について検討を進める必要がある。